

令和5年11月9日

令和5年度 第2回学校運営協議会

1 開会の言葉

2 校長あいさつ

3 協 議

(1) 本校の教育活動について

○最近の生徒たちの活動状況について

(2) 学校評価について

(3) 全国および埼玉県学力・学習状況調査の結果について

(4) 意見交換・熟議

・各委員より (気になる点、課題となっている点など)

(5) その他

4 連 絡 今後の学校運営協議会日程

第3回 令和6年 2月 14日(水) 午後 1時30分から

第4回 令和6年 3月 29日(木) 午後 3時30分から

5 閉会の言葉

# 朝霞市小中学校 学校評価実施要綱

朝霞市教育委員会

## (趣旨)

第1条 この要綱は、各小中学校における学校評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第2条 学校評価は、次の目的のために実施する。

- (1) 各学校が、教育活動その他の学校運営について、その成果を検証することにより、組織的・継続的に改善を図る。
- (2) 各学校が、自己評価及び学校関係者評価を実施し、その結果の説明・公表により、保護者、地域住民から教育活動その他の学校運営に対する理解を得て、信頼される開かれた学校づくりを進める。
- (3) 市教育委員会が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図る。

## (自己評価)

第3条 学校は学校運営の改善策を示すものとして、自己評価を行う。

- 2 児童・生徒、保護者等による評価は、自己評価を行う際の参考にする。

## (評価項目)

第4条 市教委は、学校が行う自己評価について、市内共通項目を設定する。

- 2 学校は、市内共通項目に加えて、学校の実情に応じた評価項目を設定し、自己評価を行う。

## (評価回数)

第5条 学校は、少なくとも年1回の自己評価を行う。

## (自己評価の公表)

第6条 学校は、共通項目及び学校の実情に応じた評価項目で行った自己評価について、その評価結果、及びその分析に加え、それらを踏まえた今後の改善方策について、学校だより等により公表する。

## (学校関係者評価)

第7条 学校は、自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施し、その結果の公表に努める。

- 2 学校関係者評価にあたっては、複数の学校関係者による学校関係者評価委員会（学校評議員やPTA、地域住民等の既存の組織を活用することも可）を設置して実施する。
- 3 学校運営協議会を設置している学校は、学校運営協議会で学校関係者評価を実施する。

## (市教委への報告)

第8条 学校は、自己評価の結果、及び学校関係者評価を行った場合はその結果を、市教委へ報告書として提出する。

- 2 学校は、市教委への報告を3月中旬までに行う。
- 3 報告書には、学校評価の結果に加えて、それらを踏まえた今後の改善方策等について併せて記載する。

## 附 則

この要綱は、令和元年5月22日から施行する。

## 「様式1」 令和5年度 朝霞市学校評価

## 「自己評価」(市内共通項目)評価書

朝霞第( 一中 )学校 氏名( )

柱	No	評価項目	評価				改善策として考えられること
			A	B	C	D	
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。					
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)					
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。					
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。					
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。					
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。					
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。					
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。					
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。					
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。					

(注)

○それぞれの質問に対し、児童生徒、保護者や地域、学校全般を振り返り総合的に評価。

A:よくあてはまる B:ほぼあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第一中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	3.2 B 昨年 3.3 B	・情報伝達が疎かで、組織的に機能していない場面がある。伝達の担当を決める、teamsのチャット機能を活用する等、情報を共有する。 ・生徒指導や教育相談部会以外にも、他の分掌、教科会の開催を増やす。	3.7 A 昨年 3.7 A	・コロナ禍にありながら、様々な大会で活躍した報告に、職員のバックアップ、応援がある事に心より感謝します。 ・意欲的に手を挙げていた。 ・教職員の個性も生かす様にしてほしい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	3.2 B 昨年 3.1 B	・人が少ない結果、余裕がなく未然に対応するのが難しい状況。 ・案件を共有し、周知することによって問題の早期改善をめざす。 ・学校としての優先順位を統一する。	3.5 A 昨年 3.6 A	・難しい課題も多くある中で、子どもたちに寄り添った指導をされていると思う。 ・慣れた環境とは言え、訓練が安心の気持ちを育てている。 ・不登校の生徒のことが気になる。 ・学校に入るのに簡単に入れる状態であるので、改めて考える必要がある。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	3.1 B 昨年 3.1 B	・放課後に補習の実施が容易にできるようにする。部活優先だと実施しにくい。 ・漢字や単語を繰り返し書かせる指導が必要。 ・基礎学力を身につけるために、家庭学習の習慣を増やす。 ・朝学習の時間をつくる	3.7 A 昨年 3.7 A	・授業風景から大いに感じる。 ・タブレットの利用が言葉と同様になると良い。 ・先生方の創意工夫により身に付けていると感じる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	3.3 B 昨年 3.3 B	・教材研究に充てる時間が足りない。業務内容の見直しが必要。 ・教科会の開催が少ない。お互いの協力体制構築のためには話し合いが必要。 ・規定の教員数を確保し、空きの時間を教材研究に充てることができるようする。 ・オンライン授業用のタブレットが不足している。	3.8 A 昨年 3.7 A	・日々、授業に接している生徒の評価が高いことが何よりの事と思います。 ・生徒のアンケートの99%を見ると、こちらまで楽しくなってくる。 ・全生徒が前を見て、耳を前にして行っているか。 ・先生方の創意工夫により身に付けていると感じる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	3.2 B 昨年 3.3 B	・生徒が常に走ったりなどが見受けられるが、見ている教員の人数が足りないように感じる。 ・ルールを守ることによって守られることを知ってもらいたい。 ・生活のルールはもっとわかり易い、シンプルな者になると良い。	3.5 A 昨年 3.7 A	・登下校中の様子から、社会的マナーは身につけていると思う。 ・言葉遣い、態度共に一中生は丁寧であり、頼もしい。アンケートからも理解できる。 ・朝、校門前での挨拶は、全生徒に身に付けさせているか。 ・生徒は生活のルールを守っている様子が見られる。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	3.3 B 昨年 3.4 A	・教師は模範を示めせるように。また、模範となる生徒が増えてもらいたい。	3.5 A 昨年 3.9 A	・コロナ対応で制約がある中、ルールによる工夫で努めている。 ・学校規則、校則に合っているか、子供たちには合っているか。(教職員は)見ているか。 ・上記の件で生徒が常に生活のルールを把握できているか。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	3.5 A 昨年 3.5 A	・今後の部活動のあり方を考えておくことが大切。	4.0 A 昨年 3.9 A	・外での運動に思いっきり、発散している姿は見て気持ち良い。 ・体育館、自由にやれている。校庭でも自由にしてよいと思っている。 ・活発に楽しんでいると感じる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	3.4 A 昨年 3.4 A	・毎日少しでも外で身体を動かすことが健康に大変良いと今までの経験から確信している。 ・中学生にとっては大変重要な事項である。	3.8 A 昨年 3.9 A	・活躍の表彰等、成長期の生徒にとって大いなる向上策と感じている。 ・市教委の方で方針として行っていると思うが、向上があると思う。 ・部活動の結果が、そのものではないかと思う。(努力している。)
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	3.1 B 昨年 3.1 B	・地域、行政は学校や教員が取り組みを進めていきたいことにもっと協力、支援をしてもらいたい。 ・コロナ禍ということもあり、昨年よりは保護者と接する機会が増えましたが、足りないと感じる。 ・職場体験が、これにあたる。	3.7 A 昨年 3.6 A	・地域の行事に参加してもらう等、祭りの時等、大変地域でも感謝している。 ・親、保護者、卒業生との連携があると思う。 ・PTA、地域社会等で教育力を高めている。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	3.1 B 昨年 3.1 B	・保護者・地域の要求に対し、できることとできないことの線引きを明確にする必要がある。 ・コロナ対応が緩和されたあと、協力体制が以前のようなレベルに戻すことができるのか不安である。 ・自転車の公道での乗り方やルールを守るよう、特に指導を増やしてもらいたい。	3.5 A 昨年 3.6 A	・コロナ以後の学校と地域の関わり方を再構築する必要があると思う。 ・コロナ禍での生活空間のせいか、地域の方も外に出る姿が見られなくなっている。(もう少し時間が必要か。) ・先生方は校内・校外にて指導していると思う。 ・教職員を中心に、地域、保護者と協力しあい推進している。 ・教職員の方々の苦勞に感謝します。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満

### 3 「規律ある態度」達成目標（児童生徒対象質問用紙調査結果一覧）

朝霞市立朝霞第一中学校

※ 数値は小数第2位を四捨五入して表示しています。

※ 表中の数字は、児童生徒質問調査で児童生徒が「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）

と回答した割合（達成率）（上段は埼玉県、中段は朝霞市教育委員会、下段は朝霞一中の達成率）

(%)

※   は、80%以上

内容	項目		R5			
			中1	中2	中3	
○けじめのある生活ができる	1 時刻を守る	①登校時刻	埼玉県	97.7	96.5	95.8
			朝霞市	97.4	95.5	95.1
			朝霞一中	97.9	95.3	96.1
		②授業開始時刻	埼玉県	96.7	97.3	97.4
	朝霞市		96.4	98.5	98.4	
	朝霞一中		96.6	98.9	98.6	
	2 頓身の回りの整理整頓	③靴そろえ	埼玉県	88.1	90.8	92.1
			朝霞市	90.8	93.6	94.1
朝霞一中			90.0	92.7	94.6	
④整理整頓		埼玉県	76.5	77.5	80.4	
	朝霞市	74.0	75.0	80.5		
	朝霞一中	75.9	70.5	81.0		
○礼儀正しく人と接することができる	3 返事をきちんと返す	⑤あいさつ	埼玉県	82.6	83.1	84.5
			朝霞市	84.0	84.1	88.5
			朝霞一中	84.2	82.9	88.5
	⑥返事	埼玉県	89.4	90.1	90.1	
		朝霞市	93.3	93.8	93.3	
		朝霞一中	94.8	92.0	91.0	
	4 かたい言葉を身につける	⑦ていねいな言葉づかい	埼玉県	90.9	92.7	92.5
			朝霞市	91.5	93.4	94.8
朝霞一中			94.5	94.2	97.1	
⑧やさしい言葉づかい		埼玉県	88.7	89.9	90.2	
	朝霞市	88.8	89.9	92.3		
	朝霞一中	87.6	91.6	93.9		
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る	⑨学習準備	埼玉県	91.4	92.5	93.1
			朝霞市	92.9	93.2	94.5
			朝霞一中	94.5	91.6	95.0
		⑩話を聞き発表をする	埼玉県	79.0	77.7	78.7
	朝霞市		79.8	79.7	82.4	
	朝霞一中		83.8	78.2	82.1	
	6 生活のきまりを守る	⑪集団の場での態度	埼玉県	93.1	94.4	95.2
			朝霞市	94.2	95.0	97.0
朝霞一中			95.9	96.4	98.6	
⑫掃除・美化活動		埼玉県	87.4	86.8	87.2	
	朝霞市	92.7	89.5	92.1		
	朝霞一中	93.8	89.1	93.9		



# 学校だより

9月号 令和5年7月18日発行

朝霞市立朝霞第一中学校

〒351-0013朝霞市膝折2-31

TEL: 048-461-0076

FAX: 048-467-4741

E-mail: lchuu@asaka-c.ed.jp

目指す学校像 希望を胸に未来へ前進する学校



## 270度の世界



校長 唐松 善人

野球やソフトボールの話になりますが、ホームベースから試合が行われるグラウンドを見ると90度の世界が広がっています。この90度のグラウンドをどれだけ効果的に使うことができるのかは、野球やソフトボールの試合に勝つためには大切なことです。例えば、守備側では対戦チームの打者の特徴によって守備位置を変えたり、攻撃側では対戦チームの守備位置を頭に入れて走塁したりするなどの工夫を図ることにより試合を有利に進めることができます。

しかし、本当に大切なものは、360度から90度の世界を除いた残りの270度の世界にあると私は考えます。試合が行われている90度のグラウンド以外の270度の世界に生徒が何を見て、何を感じるのかが大切だと私は思います。これまで指導をくださった監督やコーチ、試合の応援に来てくださった方、朝早くからグラウンドの整備をくださった方、お弁当を作ってくださいくださった方、ユニホームやグローブを買うために働いてお金を稼いでくださった保護者の方。試合をしている90度のグラウンドの中にはその方たちの姿は見えません。しかし、この人たちの支えがあって野球やソフトボールの試合ができるということに感謝する心が何よりも大切であると私は考えます。

このことは、野球やソフトボールの世界だけではなく、生徒が日々送っている学校生活にも当てはまることです。本校の生徒は、楽しく学校生活を送り、心も身体も日々成長し続けています。しかし、その陰で多くの方々が本校の生徒の成長を支え続けてくださっているということを忘れてはなりません。

そして生徒の成長を陰で支えてくださっている方々は、何かの見返りを求めて支えてくださっている訳ではありません。地域で育つ生徒のことが大切だからこそ、無条件に、陰でそっと支え続けてくださっているのです。

私は校長として、本校の教育活動を支えてくださっている方々に深く感謝しております。そして同時に、本校の日々の教育活動を通して、自分の成長を陰で支えてくださった方々に深く感謝することのできる心を生徒一人一人に育てたいと考えます。





# 学校だより

10月号 令和5年9月15日発行

朝霞市立朝霞第一中学校

〒351-0013朝霞市膝折2-31

TEL: 048-461-0076

FAX: 048-467-4741

E-mail: lchuu@asaka-c.ed.jp

目指す学校像 希望を胸に未来へ前進する学校



## 姑息の愛



校長 唐松 善人

中江藤樹は、江戸時代初期の儒学者であり、近江聖人と呼ばれた人です。その中江藤樹は、著書『翁問答』の中で、よくない子育てとして「姑息（こそく）の愛」をあげています。中江藤樹の言う「姑息の愛」とは、子供に苦勞をさせず、子供の願いのままに子供を育てるといことです。なお、辞書によれば、姑息（こそく）には「一時のまにあわせ。その場のがれ」という意味があります。

例えば、雨の日に、怪我や病気などの特別な理由もないのに、子供が雨の中を学校に行くのは大変だろうと大人が判断をして車で送っていく。子供がゲームや携帯電話などを欲しがったら、愛する子供が欲しがっているという理由だけですぐに買い与えてしまう。

こうした育て方は、一見すると、慈悲深い愛のように見えます。しかし、子供に特別な配慮を要する事情がない限り、こうした育て方は一度考え見直してみることも必要なのかもしれない。中江藤樹によれば、こうした育て方をすれば、やがては子供は気ままになり、人としての心が育たなくなると著書の中で述べています。

子供は、年齢が上がるにつれて、自分自身でできることが確実に増えてくるものです。その中には、学力や体力だけではなく、他人とつながる力、すなわちコミュニケーション能力があります。さまざまな問題に出会ってしまったとき、自分で考え、他人と折り合いを付けながら解決できることは、長い人生を生きていくうえでとても大切なことです。なぜなら、多くの人が集まる集団の中では、人間関係の摩擦は、当然、起こりうるものだからです。学校生活の中でも人間関係の小さな摩擦は存在しますし、社会に出れば人間関係のより大きな摩擦を経験することにもなります。

子供が幼い頃は、大人が介入して解決の方向性を示してあげることが大切です。しかし、子供の年齢や発達段階を考慮して、徐々に、子供たち同士で話し合い、折り合いを付ける力を身に付けさせることも大切なことなのです。このような経験を積み重ねながら、子供には、思考力や判断力が身に付き、徐々に大人として自立することができるようになっていきます。

「姑息の愛」という言葉から、一時的な愛情だけではなく、真の愛情を持って、本校の生徒を育てたいと改めて思いました。



校長室だより (No. 72)

令和5年8月30日(水)

文責 唐松 善人

## ★事故防止年間計画【再掲】

教職員事故、学校施設事故及び児童事故等の事故については、**未然に防ぐことが何よりも重要です**。これらの事故については、**季節や行事によって起こる可能性が高いもの**もあります。もちろん、一年を通して未然防止に努めなければならないわけですが、起こる可能性の高い時季をあらかじめ教職員全員で共通認識しておき、事故防止に向けて対策をとることも大切です。

以下は、事故防止に向けての年間計画です。先生方の中でも、事故防止に向けてお気づきの点がありましたら、職員集会等にて提案していただけるとありがたいです。



	教職員事故・学校施設事故等	児童事故等
4月	飲酒運転（滑り出しの会、離任式） 交通事故（慣れない通勤経路） 個人情報紛失（家庭連絡表等の回収） 会計事故（金銭の保管・管理方法） 鉄棒等の腐食	登下校の際の交通事故 食物アレルギー（給食開始） 虐待・過干渉 転落事故 怪我への対応（連休中の病院休診）
5月	プール施設の点検（排水溝のネジ） 教職員メンタルヘルス（連休後）	連休明けの不登校 交通事故（慣れに注意）
6月	体罰（体育祭前） AEDの確認（体育祭前）	いじめ 落雷（体育授業中・下校途中）
7月	猥褻・セクシャルハラスメント 個人情報紛失（学期末成績処理） 学期末校舎点検（プールの止水）	熱中症
8月	飲酒運転（納め会） 信用失墜行為（夏季休業中のサービス） 卒業生による夜間校庭無断使用 海外旅行による感染症	夏休みの過ごし方 交通事故（夏休み中） 水難（プール・海・川等） 夜遊び（お祭り） 家出・万引き・非行
9月	飲酒運転（滑り出し） 会計事故（修学旅行）	夏休み後の不登校・児童生徒の自殺 熱中症
10月	台風による倒木・浸水	いじめ
11月	交通事故（朝日・夕日のまぶしさ） 調査書等の記入漏れ・記入ミス	家出（進路等についての不安） 交通事故（日没時刻）
12月	個人情報紛失（学期末成績処理） 飲酒運転（納め会） 学期末校舎点検（年末年始に無人）	火遊び（ストーブ・たき火） 虐待・過干渉 冬休みの過ごし方
1月	サッカーゴール等の転倒 飲酒運転（滑り出し） 水道管破裂（凍結） 交通事故（雪によるスリップ）	交通事故（道路凍結による転倒） 冬休み後の不登校 インフルエンザ
2月	強風による施設・設備の破損・転倒 卒業アルバムの写真等のチェック	いじめ 怪我（入試前の利き腕に注意）
3月	体罰（卒業式前） 会計事故（年度末） 個人情報紛失（諸表簿作成） 飲酒運転（納め会）	強風による事故 卒業式後の過ごし方 春休みの過ごし方



## ★ 3人のレンガ職人

イソップ童話の中に「3人のレンガ職人」という話があります。この「3人のレンガ職人」の話を、経営者の立場（学校経営や学級経営）から何が読み取れるのかについて考えてみたいと思います。

諸説ありますが、イソップ童話の「3人のレンガ職人」の話の概要は以下の通りです。

ある旅人が町を歩いていると、1人の男が道の脇で難しそうな顔をしながらレンガを積んでいました。

旅人は、その男のそばに立ち止まって尋ねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」

すると、男はこう答えました。

「見ればわかるだろう。レンガ積みをしているのさ。毎日毎日、雨の日も強い風の日も、暑い日も寒い日も1日中レンガ積みだ。なんでオレはこんなことをしなければならぬのか、まったくついてない」

旅人は、その男に「大変ですね」となぐさめの言葉を残して歩き続けました。

しばらく行くと、一生懸命レンガを積んでいる別の男に出会いました。

しかし、その男は、先ほどの男ほどつらそうには見えませんでした。

そこで、また旅人は尋ねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」

すると、男はこう答えました。

「オレはね、ここで大きな壁を作っているんだよ。これがオレの仕事でね」

旅人は「それは大変ですね」と、いたわりの言葉をかけました。

すると、意外な言葉が返ってきました。

「なんてことはないよ。この仕事でオレは家族を養っているんだ。この仕事があるから家族全員が食をべていけるのだから、大変だなんて言ったらバチが当たるよ」

旅人は、その男に励ましの言葉を残して歩き続けました。

さらにもう少し歩くと、別の男がいきいきと楽しそうにレンガを積んでいました

旅人は興味深く尋ねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」

すると、男は目を輝かせてこう答えました。

「ああ、オレたちのことかい？オレたちは歴史に残る偉大な大聖堂をつくらせているんだ」

旅人は「それは大変ですね」と、いたわりの言葉をかけました。

すると男は、楽しそうにこう返してきました。

「とんでもない。ここで多くの人が祝福を受け、悲しみを払うんだぜ！素晴らしいだろう！」

旅人は、その男にお礼の言葉を残して、元気いっばいに歩き始めました。



それぞれのレンガ職人の違いは何でしょうか。それぞれ職人のレンガを積む意識を比べると、

- 1 番目の職人：なんで自分はこんなことをしなければならないのか。まったくついてない。→他人にやらされている
- 2 番目の職人：この仕事で自分は家族を養っているんだ。→生活費を稼ぎたい
- 3 番目の職人：歴史に残る偉大な大聖堂をつくらせているんだ。→世の中へ貢献したい

この中では3番目の職人の意識が一番立派ですよ。もちろん、経営者が示すべきはこの意識です。残念なのは1番目の職人で、そこには意識どころか主体性もありません。さてここで、経営者の視点から、目的と目標の違いについて考えてみたいと思います。目的とは、意識に置き換えることができます。そして、この目的がどれだけの人に支持されているかで成功するか否かが決まります。

レンガ職人でいうと、3番目の職人のしていることが一番多くの人に支持されますよね。なぜなら、最もみんなのためになるからです。

次に目標とは、目的を達成するための過程のことで、具体的な数字や数値で表されることが多いです。2番目の職人は家族を養うのが目的で、金を稼ぐのは目標です。経営者（校長、担任、部活動顧問）の立場から考えてみれば、まず示すべきことは目的です。経営者が何をしようとしているのか、それが誰の役に立つのか、はっきりと示す必要があります。目的達成のために目標設定は必要ですが、まずは目的を示すことです。示した目的を支持する人が多ければ多いほど、成功する可能性は高くなります。

校長室だより (No. 98)

令和5年10月6日(金)

文責 唐松 善人

## ★教育ニュース

## 給食費を誤徴収、514人分165万円余り

- |   |       |                             |
|---|-------|-----------------------------|
| 1 | 発生日時等 | 令和2年8月                      |
| 2 | 発生地域等 | 静岡県湖西市役所                    |
| 3 | 加害者等  | 静岡県湖西市                      |
| 4 | 被害者等  | 湖西市の全市立幼稚園とこども園に通う保護者(514人) |
| 5 | 事故概要等 |                             |

静岡県湖西市が、市立幼稚園と子ども園で本来徴収しない月の給食費を誤って徴収していたことが分かった。

誤って徴収していたのは湖西市の全市立幼稚園とこども園あわせて6園に通う514人分の給食費165万円余りです。

市によると、給食費は夏休みを考慮して1年分を11カ月で徴収する方法で行っていて、これまでは各園で管理していたが去年10月の幼保無償化に伴い、市の一般会計としての管理に変更されていた。

管理の変更で、徴収しない月を3月から夏休みのある8月にしていたが、自動引き落としなどの徴収システムを改修しておらず、誤って8月に徴収してしまった。

10月20日 職員が来年度の予算編成をした際に発覚し、市は11月分の給食費で調整するとしている。

## ★教育ニュース

## 路上で女性に抱きつく 容疑の中学校教諭を逮捕

- |   |       |                         |
|---|-------|-------------------------|
| 1 | 発生日時等 | 令和2年6月13日午後10時30分頃      |
| 2 | 発生地域等 | 埼玉県春日部市の路上              |
| 3 | 加害者等  | 上尾市立中学校 教諭 森合将也容疑者(22歳) |
| 4 | 被害者等  | 路上を歩いていた茨城県内の女性(20歳代)   |
| 5 | 事故概要等 |                         |

埼玉県警春日部署は10月22日、路上で女性に抱きついて体を触ったとして、強制わいせつの疑いで、同県上尾市立中学校教諭、森合将也容疑者(22)＝同県春日部市栄町＝を逮捕した。容疑を認めている。

逮捕容疑は6月13日午後10時半ごろ、春日部市の路上を歩いていた茨城県内の20代女性に後ろから近づいて抱きつき、体を触ったとしている。女性にけがはなかった。

上尾市教育委員会によると、森合容疑者は今年4月に採用され、特別支援学級の副担任を務めていた。勤務態度に問題はなかったという。市教委は「事実であれば大変に申し訳ない。子供たちに影響が出ないように万全の態勢をとりたい」とのコメントを発表した。

校長室だより (No. 114)

令和5年10月31日(火)

文責 唐松 善人

★教育ニュース

女子高生を買春容疑 小学校教諭を逮捕

- 1 発生日時等 令和元年5月26日午後0時15分頃
- 2 発生地域等 神奈川県横浜市神奈川区のホテル
- 3 加害者等 横浜市立小学校教諭 大谷崇文容疑者(31歳)
- 4 被害者等 高校3年の女子生徒(17歳)

- 5 事故概要等 現金を渡す約束をして18歳未満の女子高校生とみだらな行為をしたとして、神奈川県警鎌倉署は令和元年8月20日、児童買春・ポルノ禁止法違反(買春)の疑いで、横浜市磯子区磯子の同市立小学校教諭、大谷崇文容疑者(31歳)を逮捕した。容疑を認めている。

逮捕容疑は5月26日午後0時15分ごろから同4時20分ごろまでの間、同市神奈川区のホテルで、高校3年の女子生徒(17歳)に現金2万円を渡す約束をして、みだらな行為をしたとしている。

同署によると、大谷容疑者と女子生徒は会員制交流サイトを通じて知り合ったとみられる。取り調べに対し、大谷容疑者は「自分の欲望を満たすためだった」と供述しており、同署が余罪の有無などを詳しく調べている。

★教育ニュース

小学校教師が勤務先の女子更衣室で盗撮か

- 1 発生日時等 令和元年7月1日
- 2 発生地域等 和歌山県印南町立小学校体育館にある女子更衣室
- 3 加害者等 和歌山県印南町立小学校 山本真照容疑者(27歳)
- 4 被害者等 和歌山県印南町立小学校の児童

- 5 事故概要等 勤務先の和歌山県印南町の小学校で、女子更衣室を盗撮したとして教師の男が逮捕された。

小学校教師の山本真照容疑者(27歳)は、令和元年7月1日、勤務先の印南町立の小学校の体育館にある女子更衣室で児童を盗撮した疑いがもたれている。

更衣室にはデジタルの置き時計があり、文字盤の部分にカメラが仕込まれていた。7月中旬に「児童が着替えるところにカメラが仕掛けてある」と匿名の通報があり、警察が調べたところ、すでに学校が山本容疑者に話を聞いていたということである。

山本容疑者は、警察に対し「時計は置いたが、盗撮するつもりはなかった」と容疑を否認しているということである。

校長室だより (No. 115)

令和5年11月1日(水)

文責 唐松 善人

## ★鰻の稚魚と天敵のナマズ

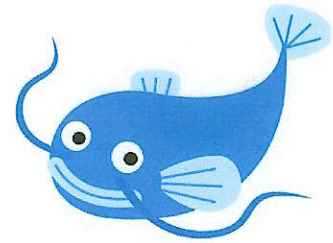
以前、高知県に旅行に行った際、四万十川の近くで天然物の鰻をいただきました。さすが天然物の鰻ということで、とても美味しかったことを覚えています。鰻といえば、その稚魚はシラスウナギであり、フィリピン東方のマリアナ諸島付近で生まれ、黒潮に乗って日本や台湾、中国にたどり着くといわれています。卵から育てる完全養殖は難しいので（最近では、完全養殖の研究も進んでいるようですが）、大きな池の中にシラスウナギを入れて餌を与えて養殖をしています。日本でシラスウナギが激減していることもあり、シラスウナギを海外から輸入していることが多いです。

シラスウナギを海外から飛行機で輸送する際、通常は水槽に入れて運ぶのですが、揺られるストレスのせいか、その多くが死んでしまうのだそうです。例えば、あるとき、カナダから輸送したのですが、1万匹のシラスウナギのうち、元気なのはわずか千から二千匹で、あとはみんな死んでしまったのだそうです。

そこで、次に輸送するとき、シラスウナギにとって天敵であるナマズをあえて一緒に水槽に入れてみました。ナマズは、シラスウナギの天敵ですから、シラスウナギは食べられてしまうことになります。でも、それをあえて一緒にして輸送しました。

すると、どうでしょう。1万匹のウナギの稚魚のうち、8千匹も生き残ったということです。何もしないで輸送したときの千から二千匹と比べると、とても多くのシラスウナギが生き残ったことになりました。

これはどういうことかということ、天敵のナマズと一緒にだったから、シラスウナギ達は食べられまいとして必死で逃げ回ってきたと考えられています。天敵であるナマズを入れることで、輸送時の揺れよりももっと強いストレスである「命に対する危機感」が勝り、生存率が上がったのかもしれない。



さて、私たちは、多くの人たちと一緒に社会生活を送っています。地域にも職場にも、いろいろな考え方をを持った人がいます。自分と気の合う人もいれば、そうでない人もいます。だから、すべての人と同じように望ましい人間関係を築くことの方が、むしろ難しいのです。

でも、鰻の稚魚であるシラスウナギのことを考えてみると、ナマズは自分の敵なのに、逆に敵がいることで元気を出して生き延びることができたのです。これと同じように、私たちも、自分にとってちょっと苦手な人や余り気の合わない人がいてくれることで、自分も何とかしようと思ひ、苦手をなくして得意なことを増やそうとしたり、人に好かれる人になろうと思ったりして、頑張れることがあるのではないのでしょうか。

あの人のおかげで、自分も頑張れるのかもしれないと思うと、随分と気が楽になるし、その人に対する見方も変わってくるものだと思はれます。このように考えると、ちょっと苦手だなと感じている人とも、今よりもきっとよい人間関係を築くことができると思います。

## ★元気が出る言葉 2 1

- ・「影」ができるのは、その先に「光」が存在するからである。
- ・スポーツでは、プレーだけでなく、心も一流になることが大切。試合で勝っても、目の前のゴミ拾えないのなら、意味がない。
- ・「今日の一針 明日の十針（きょうのひとはり あすのとはり）」  
【解説】縫い物の言葉。今日であれば1針縫うことで繕えるほころびも、明日になれば10針も縫わなければならなくなってしまう意。処置が遅れるほど、負担が重くなってしまふことのとえ。
- ・子供に心の底から自信を持つ体験をさせてあげることが大切。指導者は、その瞬間を逃さないようにする。（花まる学習会代表 高濱正伸）

校長室だより (No. 1 2 1)

令和5年11月10日 (金)

文責 唐松 善人

## ★教師という壁

小学校高学年から中学校までの児童・生徒は、思春期にあります。この時期の児童・生徒は、大人になる入口にいます。そして、その入り口で悩み、大人に対して疑問を持ち、葛藤する中で大人を乗り越えようとするものです。

この思春期にある児童・生徒の身近にいる大人こそが、保護者であり、教師です。世間では、反抗期ともいわれる児童・生徒は、一番身近にいる保護者や教師にぶつかり、反発をし、そして乗り越えようとするものです。

このとき、教師は「壁」になる必要があります。思春期にある児童・生徒がぶつかる大人の壁は、その後の彼らの成長にとってなくてはならないものです。ただし、その壁には、条件があります。

一つ目の条件は、壁の高さです。低すぎる壁では、児童・生徒に簡単に乗り越えられてしまいます。保護者や教師の壁を簡単に乗り越えた児童・生徒は不幸といえます。社会において、「していいこと」と「してはいけないこと」の区別がつかなくなってしまい、歯止めが利かなくなるからです。逆に、雲のような高さでは、児童・生徒は越えようとする意欲をなくしてしまいます。それでは成長はできません。高からず、低からず、児童・生徒が越えようとしてもなかなか越えられないけれど、越えてみようと思わせる高さの壁である必要があります。

二つ目の条件は、壁の材質です。児童・生徒の気持ちを受け止めないコンクリートや鉄の壁であってはなりません。血の通った温かい壁でなければなりません。児童・生徒の声にみみを傾け、言い分は聞く。その思いも真剣に受け止める。しかし、ダメなものはダメと毅然と跳ね返すことで、間違えた方向に行かないように導かなければなりません。最初から児童・生徒の話も聞かずに頭ごなしに指導する硬い壁では、児童・生徒は二度と本音を話してくれなくなってしまいます。

壁として児童・生徒と日々向き合うことは、決して楽なことではありません。しかし、児童・生徒が、いつの日にか自分たち教師という壁を乗り越えて、立派に成長してくれることは、教師として最上の喜びだと私は考えます。



## ★元気が出る言葉 2 4

- ・ 相手を受け入れ、理解しようとするのが人間関係の基本。  
自分と違っていいと思ったとき、新しい世界が開ける。
- ・ 人生にも、いくつもの関所がある。  
他人のせいにしていない人に、難関は越えられない。
- ・ 逆境が人に与えるものほど美しい。(シェイクスピア)
- ・ 星が見えるのは、暗い夜だけ。
- ・ 人生とは本気の産物。  
本気で物事につかかっていけば、  
そこに喜びが生まれる。(アイワールド創業者 五十嵐由人)
- ・ 勝負で一番大切なことは、  
優勢のときに焦らないこと。  
劣勢のときに諦めないこと。(将棋 谷川浩司)